

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 3 回相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会 相模原駅周辺地区小委員会		
事務局 (担当課)		都市建設局まちづくり計画部相模原駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7026 (直通)		
開催日時		平成 2 6 年 1 1 月 1 0 日 (月) 1 9 時 0 0 分 ~ 2 1 時 0 0 分		
開催場所		相模原市立産業会館 大研修室		
出席者	委員	1 3 人 (別紙のとおり)		
	事務局	5 人 (広域交流拠点推進担当部長、相模原駅周辺まちづくり課長、相模原駅周辺まちづくり課総括副主幹、リニアまちづくり課長、交通政策課担当課長)		
公開の可否		可	不可	一部不可
		傍聴者数		1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 部長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 前回の振り返りと今回の位置づけについて</p> <p>(2) 駅周辺地区の整備方針(案)について</p> <p>(3) 整備計画(土地利用)について</p> <p>(4) 次回検討テーマについて</p> <p>3 その他</p>		

審 議 経 過

1 部長あいさつ

2 議事

主な内容は次のとおり。(は委員長、 は副委員長、 は委員、 は事務局の発言)

(1) 前回の振り返りと今回の位置づけについて

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

事務局より説明があったが、ご意見があれば伺いたい。

(特に意見なし)

(2) 駅周辺地区の整備方針(案)について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

事務局からの説明について、何かご意見、ご質問があれば伺いたい。今までの流れが大体まとまって、今日の目玉が五輪マークになったという、考え方の確認作業だと思う。

これまでのまとめということだが、北口のまちづくりと関連して南口の4つのゾーン、特に中央地区という行政ゾーンのリニューアルがどう動いていくのか。実は5つの輪、あるいは6つの輪というのがつながっている。どこかを引っ張ると多分どこかが引っ張られたりして、連動型で動いていくような土地利用を整備計画にどう記載するかが重要である。プロジェクトマネジメント、進行管理の目線が必要ではないか。

6ページの整備スケジュールは、第1期で何をやるかによって、その後のステップが連動して変わってくるという関連性があると思う。将来的には、プロジェクトマネジメントが終ると、それがそのままエリアマネジメントとしてこの地域全体の展開につながっていくような、整備計画としてダイナミックな視点が必要ではないかと思う。表現としては難しいが、きちんと意識をしておく必要がある。

「公共施設適正化」は、公共施設機能の将来的な配置の話だろうと思うので、適正化でなく公共施設の配置が良いのでは。

公共施設適正化という言葉をあえて使った意味は。

公共施設の適正化という表現は、公共施設マネジメント白書で使ったものである。

本日、重点地区における整備方針に関連する項目として、北口と南口と市役所周辺と地区外、4点についてご議論いただきたい。特に橋本地区との連携、南多摩尾根幹線が繋がった多摩地区との連携、将来的には小田急線で唐木田の先ともつながるということもある。

北口をみると商業施設がないので、せっかく小田急多摩線が入ってくるので、百貨店があるといいなというのもある。北側の住民たちも商業施設を期待していたと思うが、その辺は全く考慮されないのかという気持ちがあります。

今までの流れから行くと商業は入っていたと思うが。

産業支援機能、業務機能、交流系機能とあるが、商業機能はこの中に含まれていると整理している。ただ、機能という言い方は非常にわかりにくいので、この先の資料では、広域商業機能として整理する。

いずれにしろ、第2章で入れるべき話なので、どこかに商業が入っていないといけない。

(3) 北口地区の整備計画(土地利用)について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

議論してほしい項目は、導入機能と機能配置である。ただ、今の段階ではまだ道路を書いたりできないので、まずはどういう機能があればいいかという話である。資料に記載された機能全部は入りきらないので、選んでいくことになるが、まず全部可能性を挙げたのだと認識している。

導入を想定する施設の中で、広域交流、地域交流、駅前広場の機能がありますが、リニアにしろ、小田急多摩線にしろ、地域が発展するには、この場所に合うものということに尽きると思う。米軍から返還された土地では、やはり国際的な施設が必要なのではないか。例えば、国際コンベンションに国内外から人が来たときに、観光の視点で、首都圏エリアをカバーできるような中心の場所が必要だと思う。国との関わりも深いところでは、本市にはJAXAがあり、博物館的なアフターコンベンションの施設、世界の最先端の施設があっても良いのではないか。そういう連携で、国にも支援をしていただきながらできる施設が必要なのではないか。

それと併せて、国際コンベンションには、やはり諸外国に通用するようなホテルが必要になってくると思う。ぜひ入れていただきたい。

もう一つは防災機能である。広域避難場所の機能は、当然残すべきだと思っている。

国際コンベンション施設に関連して、経済界からも意見を述べさせていただきたい。相模原市は内陸工業都市として今日まで発展してきた、本当に優秀な技術を持つ中小企業が非常に多くある。リニアの駅が橋本に決まったことにより、中京圏の国際空港、羽田の国際空港とも非常に近い距離になって、相模原市の国際的なポテンシャルが高まると思っている。

相模原市は、平成22年に政令指定都市へ移行し、都市としてファーストクラ

スの位置づけがあり、また首都圏南西部の広域交流拠点都市の位置づけもある。そういう都市の役割を果たすためにも、国際会議などが開催できる国際コンベンション施設が必要だと思う。

コンベンション施設には、展示会場も当然できるわけだが、市内の中小企業が素晴らしい製品を展示し、広く世界の方々と接点を持ちながらビジネスチャンスの機会の確保、拡大ができるように、本市の産業振興につながる施設として、ぜひお願いしたい。

国際コンベンション施設については、競合の問題や、相模原に存在可能かどうかという、需要と供給の関係でのフィージビリティの問題がある。少なくとも政令市としての風格、機能は要求されるため、フィージビリティを前提として作るとは、当然あると思う。これをきっかけにして市の産業が発展するという、前向きな話である。

1点気になるのは、リニアが来るのは橋本なので、橋本から相模原まで何分かかるかが勝負で、比較的早い段階で決めておく必要がある。

いろいろな機能があるが、広域防災の機能は、関東一円とか非常に広い範囲の安全に関わってくるとすれば、それなりの設備と国や県の機能が必要ではないか。このスペースでとても賄いきれないのであれば、コンベンション施設の地下利用も検討に入れなければならないと思う。

それから、橋本にリニア新駅ができるので、相模原で非常に大きな会議、国際会議をするためには、どうしても相模原とリニア新駅との連携が必要である。それは絶対条件として、相模原から直接アクセスできるものを織り込んで考えていかなければと思う。

今の話しは、国際コンベンション施設が、場合によっては防災機能としての役割を持てるということか。例えば、コンベンション施設でありながら地下は巨大な防災関係の機能を持っているとか。

その辺の場所は、地下利用はできると思う。

あとは司令塔、ある種のヘッドクォーター的なものが必要になる。

おそらく広域防災、関東の司令塔のようなものだろうと思うが、地下を利用すればよいと考えている。

冒頭で今年度の流れを説明したが、今回はあくまでも検討委員会の資料で、第4回では、計画の骨子案として整理する予定である。整備計画に載せる機能の話は、市民にも理解できるように整理する必要があるため、骨子案のとりまとめのイメージの中で整理したい。

多くの導入機能・導入施設が示されたが、今後、これをどうするか。今年度は可能性をいっぱい残したまままとめるのか、少し絞込みを始めるのか。絞込みは

来年度で、今年度は可能性を追っていく、という考えで良いか。

議論の幅を広げて、いろいろな意見を頂いた上で事務局が整理を行い、骨子案ないしは来年度の資料に反映し、具体的な中身を固めていきたいと考えている。

機能配置の図は、平面ではなくて何層かになっているのか。容積を上げれば、実はみんな入ってしまう可能性があるのか。

今、この地域は容積率 200%、建ぺい率 60%、用途地域は無指定となっている。南側は容積率 500%である。用途地域は商業地域を想定しているが、都市計画の話と、空間構成についても資料を用意したい。

機能配置の図を見ていて思ったのだが、広域交流機能のコンベンションやアリーナ施設と広域商業機能で、それぞれ数万㎡の規模感が予想されている。商業機能が仮に大型商業施設だとすると、かなり大きな部分がアリーナや商業機能で占められる中で、うまく施設の配置をしていかなければならない。具体的な個別の計画に入れば、もう少し規模感が見えてくるのかなと思ったのだが、この資料では規模感がつかみにくいので、もう少し実際のボリューム感がつかめると良いのかなという気がした。

空間のボリューム感みたいな作業は、今年度あるのか。

事務局で、他市・先進地の事例で面積に関する資料は用意している。事例を見た上で、導入施設のイメージを議論していただければ、おのずと導入する機能・規模感等は決まってくると考えている。

一番課題になったアリーナを置くと全てがどかされるということで、ちょっとどうかなというのはある。

国際コンベンション施設というと、パシフィコ横浜のようなイメージを持つが、パシフィコと大型商業施設が入れば相当なスペースになると思う。その辺のボリューム感をつかめたほうが、議論しやすいのかなと感じた。

そのボリューム感が一番大変だが、同時に、北口に何を入れるかということは、南口や中央地区にも連動する。人口減少で全体のパイが大きくなる時代の中で、20年後、30年後を戦略的に考えておかないと、都市計画で容積を積みばどんどん人が来ると言う時代ではない。また、北口の行政機能に何を入れるかによって、今の行政ゾーンを大きく作り変えなくてはならない。一つの発想として、行政ゾーンにホテルが建って、北口にイベントの空間があってもよい。そういう連動性というか、プロジェクトを全体として立体的にどうマネジメントして行くのかという発想の中でボリューム感を持つことが重要である。

今とても重要なことを仰っていて、要するに、仮に今の市役所一帯が動けば、跡地をどうするという議論になってくる。必要なものを仕分けて、これはあっちに作ろうということもできるわけである。これは来年度の議論か。

はい。今の段階では可能性全部ということである。

この配置機能案は平面だが、縦にするか横にするかでかなり違うのではないか。コンベンションホールを広く作ったときに、商業施設はその下に来るのかもしれない。当然行政がお金を全て出すというのにはありえなくて、民間が開発する可能性があって、民間企業は当然やりくりを考えるというのがあるので、平面だけというのではないと思う。

スタディとして、導入施設イメージを全て入れた絵は描けると思うが、問題は、将来の需要を考えた時に成立可能かどうかということ。今年度どの辺まで議論するのか。

今日の議論をふまえて、規模感と需要の話も用意できればしたい。ただ、来年度のテーマとして土地利用計画の深度化を予定しているため、この件は、次回以降もつなげて議論していきたいと考えている。

今後作成する骨子がどんなものなのかイメージできないが、方針レベルで、流れだけ作るというイメージか。

作り方としては、一般的な計画書のスタイルを想定している。方針のレベルについては事務局で預からせていただいて、次回、提案する。橋本地区とも整合を図る必要があるので、ご了承いただきたい。

平成 26 年度が計画の骨子で、具体的に決まってくるのは 27 年度というイメージか。

来年度、整備計画を策定し、これを受けて都市計画決定などの具体的なまちづくりや事業を進めていく。整備計画では規模感を含めてある程度固めていくことになるが、民間開発というのが当然あるので、計画でガチガチに固めてしまうのではなく、民間開発を阻害しないよう考えていく必要があると考えている。

整備計画は行政版の基本計画的なもので、最終的に民間が開発するときにはまた変わるというイメージでよいか。

施設規模に幅を持たせるなど、載せ方を工夫したい。

このエリアに必要な機能を固めるという作業は、来年度中ということか。

はい。その程度はやっておかないと整備計画の意味がないと考えている。

最初に議論のあったゾーニング案の絵は、私には大変新しく、北口エリアに軸線が入って一歩進んだと思う。改めて 6 つに切り分けたように見えてしまうのは、この軸線の影響もあるが、交通の問題を考える上では、エリアを超えた広域のネットワークの議論がまだ必要である。

また、南北の回遊性を高めるには、連続立体交差の話に戻るのかなと思った。北口地区の軸の取り方、南北の回遊の重要性、周辺の道路整備や小田急多摩線延伸のタイミングについても検討が必要ではないか。私も今日歩いたが、歩行者の

南北の回遊を高めることが重要だと実感した。北側だけでなく、南側にも歩きたくなるような空間を整備していかないとバランスがとれない。横浜線の南北をつなぐあたりは、議論を深めていくきっかけになると思う。

質問だが、駅の現在のデッキのところの矢印と、左側の矢印は今もあるものか。

現在はないが、氷川通りに向かう西商店街の街区は、北側の商業と一体となった回遊性の確保が当然必要だと思うので、矢印として整理した。

ゾーニング図は、あくまでも機能が入ったものということである。

3、4年前のシンポジウムで、立体的な構想として動画を作った。もちろん実際とは違うが、差し支えなければ一度見せてもらえないか。

次回検証していただけるようにする。

建物が建って重層的にいろいろな機能が入るという雰囲気があるので、できれば一回流していただいて、参考にしたい。

ボリューム感からいって、この図は、9つの機能を全部入れ込むのではないだろうと思う。南側にも5つの輪があって、北口の輪に9個の機能を入れてしまっているが、実際には9個の機能を7つの輪に配置していくのが最終的な姿である。だから、行政機能が北に移るのなら、中央街区を文化ゾーンにするとか、市役所に代わる集客性、北に来た人を南まで引っ張ってくるような魅力を持たせないと、人の流れが途絶えてしまう。南北の人の動きが出て初めて真ん中の4つの街区がどう変わっていくかが決まるのではないか。北口のイメージも大事だが、そこに全て入れる計画ではないし、さらには橋本も含めた8つのコアでネットワークや機能配置を考えて、最終的な広域交流拠点ができ上がっていく。その視点を忘れずに持ち続けないと、将来とんでもない負債を抱えることになりかねない。今がすごく大事な時期だと思っている。

行政施設周辺の位置にアリーナ施設と美術館・ギャラリー、さらに商業施設ができればというイメージは湧く。北と南の両方に集客装置ができれば、間に挟まれた4街区は発展の可能性が高い。

それには年次で転がしていかなければならない。一斉に全部作ることではできないので、第1次まち開き、第2次まち開きを経て、最終的に出来上がる。今回はステップ3だが、次のステップ4が最終的な目標だと思う。

それから、橋本のリニアと新横浜の従来の新幹線から相模原へどれだけ人を引っ張って来られるかが勝負だと思う。リニアは品川発なので、東日本の人たちは、東京駅から新幹線を利用して新横浜経由で来るだろう。そうすると、新横浜から快速で来られるほうが、長期的にはリニアよりも重要な路線になると考えている。横浜線の利用者がどんどん増えれば、連続立体も浮上してくるのではないか。

あと小田急多摩線もつながると多摩地域から人を集められるので、チャレンジ

して魅力的なものを作れば、需要は喚起できる。

小田急多摩線は地下で検討されているが、かなり深い位置にあり、結構な整備費用がかかる。しかし、更地から整備するなら、いろいろな作り方があり得る。最終形を考えるのが正攻法だが、ぜひここに鉄道が来てもらいたいという場合には、一番安い方法で、暫定的でもいいから整備するという方法論もあるのかもしれない。

小田急多摩線が延伸されるということは、都心から人が集まるようなものである。地域の代表的な施設をぜひ作っていただきたい。それと、新幹線とリニアを結んだ鉄道は他にないと思うので、横浜線の利用価値を高めるような施設、相模原市にしかできないものを作ったらどうかと思う。

相模原は地盤が非常に良いので、15ha 以外も含めた中で防災拠点となる国の機関をぜひ作っていただいて、全国の皆さん、世界の皆さんが防災について協議できる拠点を作っていただければありがたいと思っている。

五輪のマークの5つの街区についてコメントがなかったが、関係者の方から何かあるか。

我々は中央街区だが、駅からちょっと離れているため、魅力をつくるには、行政施設移転・跡地利用はチャンスととらえている。先ほど話に上がったアリーナ施設やギャラリーなどが作ればいいと願っているが、このチャンスを逃せば、取り残されてしまう。

他に、西街区、中街区に対して。

五輪の絵は、今までの歴史の中で培われた街区の特性のようなものである。今、我々はまちづくりを検討しているので、その方針に沿って、どんどん変えていかなければならないと思っている。

(4) 次回の検討テーマについて

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

次回テーマのスケジュールとは、どのようなものか。

整備段階のスケジュールである。先ほど意見があったが、ステップ1、ステップ2というスタイルで用意したいと考えている。

今の段階でどこまで意味があるのかなと思うのだが、もう少し細かいステップ3とか平成39年までの13年間の動きみたいな話になるのか。

そのようなイメージである。具体的なスケジュールは来年度の検討作業なので、大きな流れについて整理していくのが筋と考えている。

一つ動かすと全体に連動するので、スケジュールを書くのは結構難しい。機能配置が確定しないのにスケジュールが確定するのもおかしい話で、誤解のないよ

うに気をつけて説明したほうが良いと思った。

毎回出席しているが、漠然としていて、何を検討しているのかよくわからないというのが現状である。北口ばかりでなく南口のほうに商業施設を作ったらいいというのはすごくわかりやすいのだが、それ以外のことは漠然としていて、どう受け止めて、何を言ったらよいのかわからない。できればもう少し噛み砕いていただきたいというのが率直な意見である。

恐らくこのトーンで進むので、今までの経緯も含めて市役所のほうから、別途レクチャーしてはどうか。

今はまだ具体的な議論をする段階ではないのだが、数年前に見せていただいた3D、ああいうのを見ると少しイメージできると思う。

整備計画は一般市民に公表するものなので、わかりやすい資料とする。

恐らく、ピンと来ないというのは、今のことだけでなく、これから 20 年、30 年先を考えているという辺りかと思う。

以 上

相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会
相模原駅周辺地区小委員会名簿

No.	区 分	氏名 役職等	備考	出欠
1	学識経験者	市川 宏雄 明治大学専門職大学院長	委員長	出席
2		中林 一樹 明治大学大学院政治経済学研究科特任教授	副委員長	出席
3		屋井 鉄雄 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	副委員長	出席
4	市住民	鈴木 典子 公募市民		出席
5		横山 房男 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会構成員		出席
6		山田 昇一 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会構成員		出席
7	関係団体	中里 和男 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会会長		出席
8		阿部 健 相模原市観光協会専務理事		出席
9		座間 進 相模原商工会議所専務理事		出席
10		田所 昌訓 相模原市自治会連合会会長		欠席
11	公共交通事業者	山口 拓 東日本旅客鉄道株式会社横浜支社企画部長		出席
12		黒田 聡 小田急電鉄株式会社交通企画部長	代理	出席
13		三木 健明 神奈川中央交通株式会社運輸計画部長		出席
14	関係行政機関	重江 晶子 神奈川県相模原警察署交通第一課長		出席